

音楽科学習指導略案

5年3組 29名 指導者 福留健之

本授業では、以下の検証を行うものである。
 子どもが、言語活動を通じて音楽に対する自分の思いや意図を積極的に表現することが、音楽表現を豊かにすることに結び付いているか。

1 題材 いろいろなひびきを味わおう

- 「いつでもあの海は」 佐田和夫作詞／長谷部匡俊作曲
- 「リボンのおどり（ラバンバ）」 浮龍明子日本語詩／メキシコ民謡／原由多加編曲
- 「双頭のわしの旗の下に」 J.F. ワーグナー作曲
- 「アイネクライネナハトムジーク第1楽章」 モーツァルト作曲

2 目標

歌声や楽器が重なり合ういろいろな響きの特徴や違いを感じ取りながら、思いや意図をもって表現したり、想像豊かに聴いたりすることができるようにする。

音の特徴や音色の違いを生かして、全体の響きや全体の響きのバランスに気を付けながら、音の組み合わせを工夫して演奏することができるようにする。

3 題材の評価規準

- 声や音が重なり合う美しい響きを求めて表現したり聴いたりする学習に進んで取り組もうとしている。 【音楽への関心・意欲・態度】
- 旋律の重なり方の違いが生み出す響きのよさを感じ取り、美しい響きになるように表現の仕方を工夫している。 【音楽表現の創意工夫】
- 旋律の重なり方や拍子の特徴を生かして、表情豊かに歌ったり楽器を演奏したりしている。 【音楽表現の技能】
- いろいろな楽器の音が重なり合う響きの違いや、曲想とその変化などの特徴を感じ取ったり、楽曲の構造を理解したりして、味わって聴いている。 【鑑賞の能力】

4 指導計画（総時数9時間）

主な学習活動【評価規準】	〔共通事項〕	時間
1 「いろいろなひびきを味わおう」という題材で、歌声や楽器の音が重なり合う響きを感じたり、きれいな響きを味わって演奏したりする学習に取り組むことを知る。 【関：声が重なり合う美しい響きを求めて表現する学習に進んで取り組もうとしている。】 「いつでもあの海は」		1
2 範唱を聴いて曲の感じをつかみ、意味を考えながら主旋律を歌う。 【技：旋律の重なり方を生かして、表情豊かに歌っている。】	旋律	1
3 響きをつくるもう一つの旋律を練習して、重なり合う響きを感じながら合唱する。 【創：旋律の重なり方の違いが生み出す響きのよさを感じ取り、美しい響きになるように表現の仕方を工夫している。】 「リボンのおどり」	音の重なり 強弱 (mf, f)	1
4 「リボンのおどり」の楽譜を見て、①～⑦のパートの特徴について話し合い、それぞれのパートにふさわしい楽器を選んで練習する。 【技：旋律の重なり方や拍子の特徴を生かして、表情豊かに楽器を演奏している。】	反復 縦と横の関係 変化	2
5 曲全体のまとまりを考えて、繰り返す回数を決め、旋律やリズムの重ね方を工夫して響きの変化を楽しんで演奏する。 【関：音が重なり合う美しい響きを求めて表現する学習に、進んで取り組もうとしている。】 「双頭のわしの旗の下に」	強弱 へ音記号 アクセント	2 (本時)
6 曲の感じが変化する所に気を付けながら、吹奏楽の響きを楽しむ。 【鑑：いろいろな楽器の音が重なり合う響きの違いを感じ取ったり、楽曲の構造を理解したりして、味わって聴いている。】 「アイネクライネナハトムジーク第1楽章」	音色 音の重なり 旋律	1
7 強さの変化に気を付けながら弦楽合奏の響きを楽しむ。 【鑑：曲想とその変化などの特徴を感じ取りながら聴いている。】	リズム 強弱	1

5 本時（6／9）

(1) 目標

旋律の重なり方や拍子の特徴を生かして、表情豊かに楽器を演奏することができるようにする。

(2) 評価規準

音が重なり合う美しい響きを求めて表現する学習に、進んで取り組もうとしている。

【音楽への関心・意欲・態度】

(3) 指導に当たって

「つかむ」過程では、旋律が変化しながら繰り返されていく構造をもつ楽曲を聴かせ、その音楽のもつ面白さに気付かせるようにする。

「見通す」過程では、パートの組み合わせや繰り返すときの工夫について具体的に確認させることにより、子どもの思いや意図を明確に演奏に生かすことができるようにしたい。

「追究する」過程では、子どもたちの感性や発想を生かして、繰り返す回数やパートの組み合わせを工夫させたい。また、演奏するときに戸惑うことがないように、繰り返す回数や演奏するパートが分かるように板書や楽譜を分かりやすく提示するようにしたい。

「磨き合う」過程では、自分たちの演奏を録音して鑑賞する活動を取り入れ、技能的なことやパート間のバランスについて気付いたことを話し合わせ、さらにより演奏するにはどのようなことに気を付けたり工夫したりすればよいか考えさせるようにする。

「振り返る」過程では、旋律を繰り返して演奏するときに気を付けたり工夫したりしたことを振り返らせ、自分たちの思いや意図を表現に生かすことの面白さに気付かせるようにしたい。

(4) 本時の展開

[] 子どもの意識

○ 教師の手立て

※ 評価

時	過程	主な学習活動と教師の手立て・評価	
10 (分)	つかむ	1 旋律が変化しながら繰り返されていく構造を持つ楽曲を聴かせ、どのような工夫がされているか話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 同じ旋律をいろいろな楽器で演奏しているね。 音色や音の大きさが変化していくと、同じ旋律の繰り返しも楽しみながら聴くことができるね。 「リボンのおどり」でも、同じように繰り返しを工夫して楽しめないかな。 	導入で旋律の繰り返しで構成された音楽を鑑賞させ、その繰り返しにある工夫を気付かせることにより、本時の学習への関心をもたせるようにする。
		2 学習課題と追究方法を確かめる。 「リボンのおどり」を楽しい演奏にする工夫について考えよう。	工夫されている様々な音楽の要素に気付かせ、本時の学習への意欲付けを図る。
18	見通す	3 学習の進め方を確認する。 (1) 自分が練習しているパートの復習をする。 (2) 楽しい演奏にする工夫について話し合う。 (3) 演奏の練習をする。 (4) 自分たちの演奏を録音して聴く。 (5) 学習を振り返る。 「今日の学習の流れが分かったぞ。早くみんなと演奏したいな。」	1時間の学習の流れに見通しをもたせ、学習のねらいを子どもたちが明確にもてるようにする。 学習の流れを板書することにより、学習の進み方が具体的に分かるようにしておく。
		4 楽器を準備して自分のパートを練習する。 「リズムに乗って演奏する感じだったね。演奏がつい速くなってしまうから気を付けないといけなかったね。」	子どもたちの感性や発想を生かして、繰り返す回数やパートの組み合わせを工夫させるようにする。
12	磨き合う	5 楽しい演奏にする工夫について話し合い、演奏の練習をする。 「繰り返す回数が少ないとあまり工夫もできないね。何回ぐらいがいいかな。パートは、どのような組み合わせにするといけかな。最後は全員で演奏すると、迫力があってカッコいいね。強弱の変化もあるとよさそうだね。」	※ 音が重なり合う美しい響きを求めて表現する学習に進んで取り組もうとしている。(発言の内容や演奏の聴取) ○ 積極的に発言して演奏を工夫しようとする子どもには、その工夫のよさを考えさせ、音楽に対する思いや意図をしっかりともたせるようにする。 ○ 演奏の工夫に消極的な子どもには、技能面の助言をしたり、演奏に関する具体的な工夫の仕方を例示したりして学習への意欲を喚起したい。
		6 自分たちの演奏を録音して聴き、気付いたことや感じたことについて話し合う。(「ききタイム」) 「自分たちが話し合った工夫が、演奏に表れているね。リズムがそろっていないところがあるよ。音の大きさに気を付けて演奏した方がいいパートもあるね。」	
5	振り返る	7 本時の学習を振り返る。 「みんなで工夫して、楽しい演奏ができたね。次の時間は、他の楽器も加えて演奏してみると、もっと楽しくなりそうだね。」	パートの組み合わせや強弱などを工夫することにより、演奏が楽しくなることを理解させる。